

資料タイトル：1921～1935年度の本科・高等科の制度変更

作成者：村上民

作成年代：2021年11月

資料内容：創立期（1921年）から男子部設立（1935年）までの自由学園本科・高等科の制度変更をまとめた。

典拠資料：「自由学園 大正十二年 1923」[1923年度生徒募集要項]、「自由学園要覧」[1924年度末作製カ 1925年度生徒募集要項カ]、
「自由学園要覧 昭和二年」、「自由学園生徒募集」（『婦人之友』1930年2月号、23頁）、『自由学園の歴史Ⅰ』。

『自由学園一〇〇年史』該当章：第Ⅱ部女子部第二章第一節 本科・高等科の一貫教育の整備（262頁）

二次利用に際して：作成以降、調査内容が追加・修正されている場合があるため、本資料の二次利用については事前許可制とする。

「資料利用許可申請書」を記入の上、archives@jiyu.ac.jpへ提出のこと（詳細は「自由学園100年+」トップページ>資料の公開方針と利用方法 を確認）。

年度	本科入学回生	高等科入学回生	制度変更に関する事項（要覧等の記述に基づく）
1921年度	6回生	1回生	本科（5年制・定員40名）、文学科・家庭科（2年・定員15、40名）
1922年度	7回生	2回生	4年制女学校卒業生のために予科新設／文学科・家庭科を一本化して高等科とする[1]
1923年度	8回生	3回生	予科の英語の程度は第三読本、高等科の英語の程度は第四読本を目安とする／5年制女学校卒業生も予科入学可能／予科から高等科進学は無試験[2]／※1923年4月に1回生が卒業、卒業生のための1年間の研究科ができる
1924年度	9回生	4回生	
1925年度	10回生	5回生	4年制女学校卒業生は予科を経て高等科進学するものとする[3]
1926年度	11回生	6回生（本科から進学）	※創立年本科入学生（6回生）が高等科進学、高等科からの入学生5名／高等科が三部構成になる→一部：経済・理科、二部：英語、三部：美術・洋裁
1927年度	12回生	7回生	本科から普通科に名称変更／5年制女学校卒業生についても予科から入学し3年間の学園教育を受けることが望ましい[4]
1928年度	13回生	8回生	
1929年度	14回生	9回生	
1930年度	15回生	10回生	5年制女学校卒業生についても予科入学を勧める（実質的に高等科入学なくなる）[5] 1930年中に学則変更申請・認可（名称変更、高等科入学は予科を経て高等科進学とする）
1931年度	16回生	11回生	高等部入学希望者は予科を経て高等科進学のこと
1935年度	20回生	16回生	男子部設立に伴い、自由学園（女学校）は女子部に名称変更。普通部4年、高等部3年の7年制女学校となる（1936年から予科廃止）

- [1] 『自由学園の歴史Ⅰ』、74頁。
- [2] 「自由学園 大正十二年 1923」 [1923年度生徒募集要項]
- [3] 「自由学園要覧」 [1924年度末作製カ 1925年度生徒募集要項カ]
- [4] 「自由学園要覧 昭和二年」
- [5] 『自由学園の歴史Ⅰ』、224頁。「自由学園生徒募集」『婦人之友』1930年2月号、23頁。